

分野	授業科目名	単元名	単位数	時間数	履修時期	担当講師
専門分野Ⅱ 母性看護学	母性臨床看護論Ⅰ	妊娠期分娩期の看護	1	30	2年次前期	看護師長 助産師 非常勤講師

テキスト(発行所)	系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②(医学書院)
テキスト以外の教材 参考図書	

学習のねらい	妊娠期の妊婦及び家族の看護について理解し、妊婦や胎児のアセスメント、保健指導、家族を含めた看護を学ぶ。また、分娩期の産婦の看護について理解し、アセスメントと看護の実際を学ぶ。
学習目標	<p>周産期の母子における生理的変化と、その特性を理解し母子・夫・家族に対して必要な看護を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 妊娠期における生理的変化とその特性を理解し、胎児の発育に伴って変化する母親の身体的、精神的特徴を学ぶ。</li> <li>2) 妊婦と胎児の健康の保持・増進のための、妊婦のセルフケア能力を高める援助について、保健指導及び分娩・育児への準備等具体的な内容を学ぶ。</li> <li>3) 分娩期における正常経過を学び、分娩の進行に沿って、アセスメントの視点を具体的に学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩の3要素と分娩の機序について理解する。</li> <li>・正常分娩の経過及び、それに伴う産婦の身体的変化と心理・社会的変化について理解する。</li> <li>・安全・安楽な分娩の進行に向けたアセスメントと援助について理解する。</li> </ul> </li> <li>4) 産婦や家族に必要な援助を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩期の産婦・家族のニーズについてアセスメントし、ニーズの充足に向けた援助について理解する。</li> </ul> </li> </ol>

#### 学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態 他
1回	周産期の看護の基礎 胎児の発育とその生理	妊娠とは妊娠の成立、妊娠期間の定義 胎児の発育 胎児付属物(胎盤と羊水)	非常勤講師 講義
2回	妊婦と胎児のアセスメント	妊娠における生殖器の変化と全身的变化	非常勤講師 講義
3回	妊婦と胎児のアセスメント	妊娠における身体的・精神的・社会的変化	非常勤講師 講義

4回	妊婦と胎児のアセスメント	妊娠の経過と診断	非常勤講師講義
5回	妊婦・胎児の健康と生活のアセスメント	食生活、服薬・嗜好品、排泄、清潔、運動・姿勢、休息・睡眠、衣生活、性生活、ストレス対処行動	非常勤講師講義
6回	妊婦・胎児の健康と生活のアセスメント	産科的診察法、妊婦・胎児の身体的健康状態のアセスメント、胎児心拍モニタリング	助産師講義
7回	妊婦と家族の看護	1. 妊婦の保健指導 2. 栄養管理と運動 3. 親になる準備教育と家族の支援 4. 災害時の妊産婦と家族への支援 5. 外国人妊産婦と家族への支援	助産師講義
8回	親になるための準備教育	バースプラン、出産場所の選択、里帰り分娩入院のための準備、産痛緩和法	助産師講義
9回	分娩について	1. 定義 2. 三要素 3. 機序	看護師長講義
10回	分娩の経過について	1. 分娩の進行と産婦の身体的変化 2. 分娩が胎児に及ぼす影響	看護師長講義
11回	分娩第一期のアセスメントと看護の実際	1. 産痛緩和のための身体的ケア 2. 基本的ニードの充足	助産師講義 骨盤・児頭模型
12回	分娩第二期から第四期のアセスメントと看護の実際	1. 分娩第二期の身体的・精神的ケア 2. 分娩第三期と第四期身体的・精神的ケア 3. 家族の心理・社会的変化と看護の実際	助産師講義
13回	妊娠期の健康問題と看護	1. ハイリスク妊娠の看護 高年齢妊婦 若年妊婦 肥満妊婦 切迫流・早産の妊婦 多胎妊婦 ART後の妊婦	助産師講義
14回	妊娠期の健康問題と看護	1. ハイリスク妊娠の看護 妊娠高血圧症候群 妊娠糖尿病 前置胎盤 常位胎盤早期剥離 妊娠悪阻 妊娠貧血	助産師講義
15回	分娩の異常と看護	1. 前期破水 2. 帝王切開術後 3. 胎児機能不全 4. 陣痛異常（微弱陣痛・過強陣痛）	講義

<b>単位認定の方法</b>	1. 30 時間のうち、24 時間以上の出席があること。 2. 筆記試験 100 点満点で、60 点以上を合格とし単位認定とする。
<b>受講上のアドバイス</b>	<p>母性看護は母親を対象とし、健康の維持・増進、疾病の予防を目的としている。妊娠期間を身体的・精神的に順調に過ごす事が、正常な分娩へと導く事ができる。そのためには、妊婦自身が身体の変化に応じて生活行動を変化させていくことが大切であり、食事、排泄、睡眠・休息、動作・運動、清潔、嗜好、性生活等の生活行動について、妊婦自身が状況に応じて対処していくセルフケア行動をアセスメントすることが大切である。また夫や親戚、祖父や祖母等支援する家族と共に、胎児を受容し分娩の喜びを分かち合うプロセスを学ぶ。臨床において妊婦の保健指導や分娩時の支援を理解し、感動的な分娩に関われるよう学ぶ。</p>